



少数民族モンを訪ねる
ラオス難民

日本の国土の一・四 倍のタイは七十六の県からなる。そのタイ北部、ラオスと国境を接するバヤオ県に山口県のNGO・シャンティが運営するシャンティ学生寮がある。

ラオス内戦で住んでいたラオスを追われ、タイ北部の山岳地帯に住む、貧しいモン族の子どものための寮だ。



標高一六二八呎、ラオスとの国境では十四万七

百七十三人、ベトナム難民キャンプには五千五百八十人。難民キャンプに入らない人を加えると、インドシナ戦争で難民となった人は七十七万人を超える。アメリカの北ベトナム爆撃当時はよく日本でも報道されたが、今ももうほとんど忘れられている。ラオス難民のモン族に関しては安井清子著「空の民の子どもたち」(社会評論社)を読むと全ぼうがよくわかる。

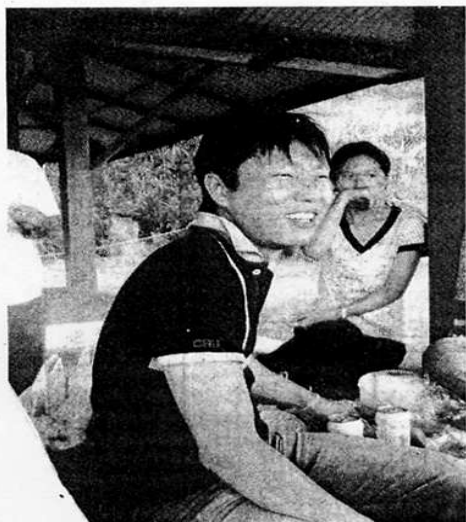
貧困からの売春、人身売買などに起因している。多くの山岳地帯にモン族の者が住み、彼らはさらに貧しい。ラオスとの国境に断崖絶壁のプー・チー・ファアという名所が

山頂近くまで
モンの人たちは畑を耕す



さて、シャンティ寮のあるバヤオ県だが、貧しい人が多く住んでおり、県都バヤオに近いドックカムタイはタイで最もエイズ患者が多い村と言われている。ある。山頂からラオスを流れるメコン川や雲海に包まれた壮大な景観が見られるので、タイでは日の出を見るスポットとして有名な。その山頂近くまでモンの人たちが畑を作っており、よくそんな山の上まで畑にしたものだと感じさせられる。一面のトウモロコシやキャベツの畑、彼らは大地にしがみつこうように生きている。我々がプー・チー・ファアを訪れた時、山頂近くの休憩所に青年が我々を待っていた。近くの山に住む彼は

シャンティ寮の卒業生で、父親が亡くなり、一家の主として働かねばならず山に帰って来た。我々が来るのを知り、自分で取った果物を持って待っていてくれたのだ。結婚して子どもが一人、米、ゴム、ライチを作って生計を立てているという。こんな山奥から低地にあるシャンティ寮で勉強したことを思うと、改めて山口県のNGOが運営するシャンティ寮の役割の大きさを実感させられた。(元山口放送取締役ラジオ局長)



シャンティ寮卒業生のポーさん